

自然光を積極的に利用したサステナブル建築の「かたち」

主催 日本建築学会 環境工学委員会

主旨

ある特定の設計要素に着目して建築設計を進めていけば、しばしば建築の新しい「かたち」を産み出すことができると言われます。注目すべき設計要素はさまざま考えられ、環境要素も注目すべき設計要素の一つですが、国際連合で宣言された2015年光および光技術の国際年（IYL2015）に呼応する意味もこめて、ここでは自然光の積極的な利用を取り上げます。自然光を積極的に利用しようとかから設計を進めると、建物の方位、開口のとり方、光を取り入れる仕組みなどによって、自然光がもたらす光環境が大きく変化することに気づき、建築そのものの「かたち」を再検討しなければならないことに気づくことでしょう。

自然光を積極的に利用することはまた、サステナブル建築につながると考えられます。電灯照明に依存する時間帯を減らすことができ、一日当たり、一年当たりの電力消費量を減らすことができます。しかしながら、光は可視光と同時に熱負荷をもたらすことから、安易に自然光を取り入れることは、逆にエネルギー消費を増やしかねません。サステナブル建築を実現するためには、多面的な評価が欠かせないことになります。

自然光を積極的に利用した建築には、町家のように坪庭を有効に活用した住宅、ハイサイドライトや反射ルーバーを活用したオフィス、天窓や頂側窓を積極的に利用した図書館や体育館、幕の拡散光によって外光を取り入れた競技場などが考えられ、建物の規模や用途によって、自然光の利用の仕方にはさまざまなバリエーションがありえます。設計者のアイデアの幅を広げるため、これらの設定は自由とします。この設計競技が、新たな建築のあり方を考えていくきっかけとなれば幸いです。

応募要領

① 課題

自然光を積極的に利用したサステナブル建築の「かたち」

② **応募資格** 本会個人会員（準会員を含む）、または会員のみで構成するグループとする。なお、同一の個人または代表名で複数の応募をすることはできない。

※未入会者、2015年度会費未納者ならびにその該当者が含まれるグループの応募は受け付けない。応募時までに入会および完納すること。

③ 募集内容

- (1) 基本的コンセプト、考慮した自然光を積極的に利用したサステナブル建築の「かたち」が明記されていること。特に、自然光の利用が、新たなデザインにどのように繋がっているのかが明確に記載されていること。
- (2) 自然光以外の温熱環境や電力消費量などの環境要素に関しても考慮されていること。
- (3) 建物種別や想定条件は、応募者が自由に設定してよい。
- (4) すでに実在している建物でも、想定した建物でもよい。

④ 審査員（敬称略、五十音順）：

委員長 羽山 広文（北海道大学）
幹事 加藤 未佳（金沢工業大学）
委員 岩田三千子（摂南大学）
金田 充弘（東京藝術大学）
重村 珠穂（アルゴリズムデザインラボラトリ）
田辺 新一（早稲田大学）
中村 芳樹（東京工業大学）
藤本 壮介（藤本壮介建築設計事務所）
山梨 知彦（日建設計）

⑤ 提出物 下記3点を提出すること（日本語または英語による）

(1) 応募申込書

以下の内容をA4判1枚に明記すること（書式は特になし）。

- ① 提案名（提案内容を的確に表す簡潔なタイトル）
- ② 代表者の氏名（ふりがな）・会員番号・所属
- ③ 共同制作者全員の氏名（ふりがな）・会員番号・所属
- ④ 上記中の事務連絡担当者の氏名（ふりがな）・会員番号・所属・連絡先住所・電話番号・E-mailアドレス

(2) 応募案

以下の内容をA1判1枚に収める。用紙は縦使いとし、パネル化しないこと。

- ① 提案名（提案内容を的確に表す簡潔なタイトル）
- ② デザインの意図と概要など
- ③ 自然光以外の配慮（温熱環境、電力消費量など）

※注意：提出図面には、氏名・所属など応募者が特定できる情報を記載しないこと。

(3) 上記(1)応募申込書、(2)応募案のPDFファイルを収めたCD-RまたはDVD-R

⑥ 提出期限 2015年7月6日（月）17時必着

⑦ 審査会 審査は二段階で行う。

(1) 一次審査会（非公開）2015年7月下旬予定

入選作品候補を選定する。

(2) 二次審査会（公開）2015年9月5日（土）午前

建築学会大会（関東）において候補者による10分程度のプレゼンテーションを実施し、その後各賞ならびに佳作を決定する。

⑧ 表彰

最優秀賞 1点：賞状および副賞50万円

優秀賞 3点以内：賞状および副賞10万円

佳作 若干：賞状および副賞5万円

ただし、審査結果において該当作品なしとする場合がある。

⑨ 審査結果の公表等

入選作品は2015年9月の日本建築学会大会（関東）で表彰する。入選作品は日本建築学会大会で展示し、審査経過・講評とともに『建築雑誌』および本会ホームページに掲載する予定である。

⑩ その他

(1) 応募図面および関係書類は返却しない。

(2) 応募作品の著作権・特許権は応募者に帰属するが『建築雑誌』・本会ホームページへの掲載や日本建築学会編の出版物に用いる場合は、無償でその使用を認めることとする。

(3) 課題に関する質問は受け付けない。

【提出先】

（一社）日本建築学会事務局「技術部門設計競技」係

〒108-8414 東京都港区芝5-26-20

TEL.03-3456-2057（担当：一ノ瀬）

自然光

を積極的に利用した

サステナブル
建築の

「かたちたち」

審査員

(敬称略、五十音順)

委員長 羽山広文
(北海道大学)

幹事 加藤未佳
(金沢工業大学)

委員 岩田三千子
(摂南大学)

金田充弘
(東京藝術大学)

重村珠穂
(アルゴリズムデザインラボラトリ)

田辺新一
(早稲田大学)

中村芳樹
(東京工業大学)

藤本壮介
(藤本壮介建築設計事務所)

山梨知彦
(日建設計)

提出期限

2015.07.06 (月) 17時必着

審査会

- (1) 一次審査会 (非公開) 2015 年 7 月下旬予定
- (2) 二次審査会 (公開) 2015 年 9 月 5 日 (土) 午前

詳細

URL または QR コードより詳細情報をご確認下さい。
【<https://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2014/2015gijutu-compe.pdf>】

